兵庫県版
日本の息吹
兵庫版
第一九一号平成二九年(皇紀二六七七年)九月二二日号
日本会議兵庫県本部事務局
六五〇-〇〇一五　神戸市中央区多聞通三-一-一
兵庫県神社庁内　（〇七八-三四一-一一四五）
HP　https://www.nipponkaigihyogo.org/.
メール　nipponkaigihyogo@gmail.com

《淡路支部総会》

去る七月二十九日(土)午後七時より、厳島神社（兵庫県洲本市本町）で、日本会議兵庫淡路島支部平成二十九年度・第七回総会並びに記念講演会を開催した。

先ず、第一部の記念講演では伊弉諾神宮宮司・神道政治連盟兵庫県本部長の本名孝至先生を講師として、演題「淡路が生んだ樋口季一郎中将」と題してご講演いただいた。

本名先生の講演では先ず、樋口中将の出生と生立ち、人となりのご説明があり、「優しくて律儀で頭脳明晰で、外国語を何ヶ国語も遣い分ける。そんな立派な軍人が歴史の中で埋もれてしまっていることが残念で、中将は淡路島生まれであり、その他にも多くの偉人や高貴な方がお生まれになっていらっしゃる淡路島。その島の方々に、是非その事実を知ってもらいたい。そしてその偉人の方々を誇りに思えるような土壌を育むのが、今の時代の日本会議の責務だと思う。」と話した。

樋口季一郎氏は明治二十一年八月、現南あわじ市阿万の奥濱家に生まれる。三原尋常高等小学校を首席で卒業し、丹波篠山の鳳鳴義塾卒業の後に軍人の道へ進む。明治三十五年に大阪陸軍地方幼年学校を次席で、明治四十年に中央幼年学校（後の士官学校予科）を卒業の後、第一師団歩兵第一連隊（東京）に配属。生家である奥濱家が没落。父方の叔父で陸軍軍人であった樋口勇次、とよ夫妻の養子となる。その後、陸軍士官学校（第二十一期）、陸軍大学校（第三十期）卒業。陸軍大尉となり、ウラジオストックへ特務機関員として派遣され、ハバロフスク特務機関長、参謀本部、朝鮮軍参謀を歴任。ポーランド公使館付武官となり、学生時代に懸命に勉強した語学を活かし、欧州の各国を巡り事情を周知し、幼年学校時代に親交のあった石原莞爾氏をはじめ、様々な人脈の導きがあり国際的に活躍されることになる。

殊に、昭和十三年三月。ドイツの迫害を受けたユダヤ人の難民が、ソ連側の満州国との国境付近のオトポールに集結。日本とドイツの接近を慮る満州政府は、これらの難民の入国を拒否したため、立ち往生することになったのがオトポール事件である。偶々ハルピンにて特務機関長を務め少将となっていた樋口氏は、予てから交誼のあった満州鉄道総裁の松岡洋右氏や東條英機氏と親交があって、難民開放のため人道的な立場で大変な努力を重ね、ソ連との国境線を越える満鉄の特別列車でハルピンへ移送した。一日二往復だけでは収容出来ないと松岡氏を説得し、特別列車の増便を図り、世界ユダヤ協会の発表では約二万人もの難民を救済したとされている。満州にはユダヤ人の組織があり、五日間のビザを発行して、米国や上海をはじめ全世界各地へ移住することが出来た。救われた難民は二万人もなかったとする説もあるが、リトアニア駐在の外務省文官であった杉原千畝氏が同じくユダヤ人を救済した事は有名であり、この方々も含まれているかもしれないが、二、三千規模の人々を十三回に亘って誘導したとの説明もある。

また、大東亜戦争開戦後は、北部軍司令官（札幌）として、米国との数々の激戦を指揮。昭和十八年五月、無念のアッツ島の将兵二六〇〇余柱の壮絶なる玉砕を経験。指揮官として苦悩の決断をした樋口中将は、同年七月、キスカ島での将兵五一八三名の奇跡の撤退作戦を成し遂げる。同年八月八日。ソ連軍は満州、朝鮮半島そして北海道の占領と共産化を目的として、一方的に日ソ不可侵条約を破棄し進撃。昭和二十年八月十五日終戦。北部復員監として武装解除等の指揮を執っている最中の十八日早朝、ソ連軍が占守島に侵攻。断固反撃を指示し、自衛のため全軍武器

《 ９月２２日以降の日本会議兵関連団体の主な催物 》

○10月21日(土)11時 全国戦没学徒追悼祭 若人の広場(淡路) 8時30分 湊川神社からバス
　申込先0799-80-5001伊弉諾神宮

○11月2日(土)姫路　6日(月)神戸　10時半　兵庫縣護國神社秋季慰霊大祭
　※3日(金･祝)午前七時 神戸護國神社清掃奉仕活動(活動後お茶とお結び) 要連絡　07055082577

○11月18日(土)14時 日本会議兵庫中･西播磨支部学習会「廣瀬武夫」講師 田中昭夫(姫路師友会長)
　申込先079-224-0885 (FAX)

○11月25日(土)14時 三島由紀夫･森田必勝両烈士追悼祭(13時30分開場) 問合先 07055082577
　(会場:長田神社　2,000円 先着50名会員限定 要予約 記念講演;講師百地 章先生)

○12月9日(土)午後 神戸支部設立総会(記念講演;講師未定)

○ 2月11日(日)建国記念の日を祝う会(神戸，姫路) (記念講演;講師未定)

を持って勇敢に戦いこれを撃退。結果的にソ連の目的であった北海道への侵攻の野望を阻止した。その後にソ連軍は北方領土を占領し今日まで領土問題は解決していない。樋口中将の決断によって、日本が朝鮮半島やドイツの様に、同じ民族でありながら南北や東西に別れることにならなかったことは、日本民族にとってどれだけ価値のある決断であったことか。戦後の東京裁判での戦犯の扱についても、中将の拘わった道内の捕虜収容所について、占領軍が戦犯を立件するため詳細な調査をするが、何一つ虐待や非人道的な取扱いは見られなかった。ソ連は戦犯として裁くように申し出るが、救われた世界ユダヤ協会の米国在住の人々が米国国防省に救いの嘆願をし、戦犯としての訴追を免れる事ができたのであった。

締め括りに、「武人でありながら大変優しいお心を持ち、大所高所に立って様々な方を人道的に誘導されたこの方を、今後も顕彰することをさせて戴きたい。一時代を走り抜けた偉人がいたことを皆様にもう一度確認して戴き、歴史の中では隠れてしまっているけれども、大いに顕彰しなければならない方々が各地にいらっしゃる。そういった方々を掘り起こしながら、その気持ちを我々も受け継ぎながら、少しでも世の中が良い方向に立ち直っていきますように、志をひとつにすることをお願い申し上げます。」と郷土の偉人顕彰を訴えられた。

戦中、日本人は悪いことばかりして、侵略をして搾取をしたと自虐的に声高に言う方もあるが、今こそ日本会議の組織を挙げて、我々の先人達が立派な人道的な立場で、民族の独立の為尽くされたことを、もう一度確認しなければならないと痛感した。

引続き第二部の総会では、地元選出の衆参両院の国会議員（秘書代理）、兵庫県議会議員、淡路島内の三市より市議会議員と島外の日本会議関係者を迎え、約八十名の有志が集った。事業報告・会計決算報告ならびに事業計画等が審議され、締め括りに「国生みの島の誇りと日本の歴史・伝統・文化を尊重し、明るく豊かな日本の創造と、憲法改正の実現を目指して国民運動を推進する。」との宣言文が採択され閉会した。

（淡路島支部事務局）

《和気あいあいの研修会・懇親会》（西部地区）

日本会議兵庫では、会員相互の意思疎通の機会として、今年度より「新人研修・並びに歓迎会」が計画された。兵庫県は広く、二分して東は神戸市で、西は姫路市で開催することとなった。

西の開催は、去る八月五日午後四時二十分から六時半まで兵庫縣姫路護國神社参集殿に於いて新入会員十八名、各支部役員十名を加え二十八名でスタートする。「日本会議」に参加したものの「日本会議って何？」「どんなグループ」との疑問に答える思いもあった。「どんなことする」といぶかる会員への思いの払拭、会員間の忌憚のない「意見交換」「心のつながり」必要だった。酒を含めた飲食の会　それが一番の近道かもしれない、企画側の意見だったのだろう。

会長挨拶、各支部の活動発表とともに、新しい会員の皆さんの思いをしっかり述べて頂いた。いろいろな思い、それぞれの職歴を通じて話、改めて驚きと力強さを感じたのは筆者だけだったろうか。

初めての会は上手く機能した。東播磨支部支部長・日岡神社日岡宮司も一集まって会食する－これは昔からよく言われる「同じ釜の飯を食う」ということだ、と結束を締めくくっていただいた。

二時間の予定があっという間に飛んでゆく。予定の集合写真も撮れなかった。当会場（姫路護國神社）で八月二十六日（土）開催の中・西播磨支部の総会・記念講演会・懇親会に、また「同じ釜の飯を食べましょう」と約して解散した。

（中西播磨支部事務局）

憲法改正
成功させましょう！

今回は、終戦記念日が入るので、支部総会の原稿の文字数を増やして支部事務局に依頼してみました。

ご講演については思い入れの強いものとなっていそうに感じたからです。

御多忙にも拘らず快諾頂いた支部には感謝申し上げます。

《中・西播磨支部》
総会・記念講演会・懇親会　報告

◎総　会

去る八月二十六日(土)午後一時三十分より、兵庫縣姫路護国神社参集殿において、平成二十九年度日本会議兵庫中・西播磨支部の総会が開催された。前年度の事業報告、会計報告、ならびに今年度の計画案、予算案が承認され、併せて宣言文が採択された。支部設立十周年総会にふさわしく約五十名の参加をみた。

尚、当支部の中心活動は学習会においており、今年は「近現代の人物に学ぶ」と題して、例年通り年六回の学習会を計画していることが報告された。さらに、八月五日の第四回学習会の後、会員拡大と親睦を図るために、県西部の新会員対象に、当支部が担当して、「新会員研修と歓迎会」を実施した旨報告。

学習会についても、従来、役員のみが担当してきた講師も、今後は広く一般会員の中からも募り、会員の輪と新しい風を期待して、これまで以上に会員相互の信頼と連帯が獲得できるよう努力を重ねていきたい。

◎記念講演報告

「ロシア革命百年の呪縛」と題して、産経新聞 副社長大阪代表　斉藤　勉氏に、世界各地の紛争、国際政治、日本のあるべき社会等を、ジャーナリステックに語って頂いた。翌日、「産経新聞」に次のように掲載された。

―産経新聞掲載記事―

「革命の呪縛　解けるまで報道」
斉藤・本紙副社長、姫路で講演

日本会議兵庫中・西播磨支部の平成２９年度記念講演会が２６日、姫路市本町の姫路護国神社で開かれ、産経新聞社の斉藤勉副社長大阪代表が「ロシア革命百年の呪縛」と題して講演した＝写真。　講演会には会員ら約１００名が　参加。９年間にわたってモスクワ特派員を務め、「ソ連、共産党独裁放棄へ」のスクープで日本新聞協会賞を受賞した斉藤副社長の分析に耳を傾けた。

斉藤副社長は、ソ連の基礎を築いたのはスターリンで、その国家運営手法は軍部と情報機関を使った恐怖政治であり、反対勢力の粛清だったと主張。その上で「スターリン時代に起きたことが今、世界で起きている。その呪縛にとらわれている」と述べた。

具体的には、ロシアのクリミア半島併合や中国による南シナ海の実効支配が「ソ連による北方領土の強奪に淵源がある」と指摘。ソ連が日本人捕虜に対して行ったシベリア抑留は、「壮大な拉致事件だった」と指弾し、「呪縛が解けるまで事実を報道し続ける」と結んだ。

（二〇一七・八・二七）

◎懇親会

引き続き、午後四時三十分からは少し離れた町中の「福亭」において懇親会を開催。講演者の副社長斉藤　勉氏にも参加していただき、会員たち四十二名が賑々しく懇親を深めた。料理をつつき、酒を酌み交わしながら、まるで講演の続きとばかりに、講師への質問や会員らの日頃の思いが活発に行き交った。

誰が言い出したのかは解らないが、やがて『海ゆかば』を一緒に謳おうと声が上がり、お互いに肩を組み合って、人の波が大きくゆっくりうねりはじめる。声の響きに連れて、会員たちの心の絆もさらに広く深くなっていった。

（中・西播磨支部事務局）